

大好き！絵本

初瀬 恵美



『ねずみのさかなつり』

作：山下明生

絵：いわむら かずお

出版社：ひさかたチャイルド



新年あけまして おめでとうございます

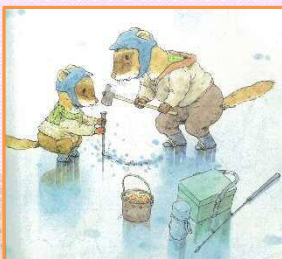
いよいよ、新しい年がスタートしましたね。今年は「ねずみ年」ということで、ねずみにちなんだ絵本『ねずみの さかなつり』をご紹介します。

この絵本は、山下明生（はるお）さん作、いわむらかずおさん絵の「7つ子ねずみシリーズ」全4作のうちの1作です。いわむらかずおさんというと、「14ひきシリーズ」が有名なのですが、今回はこちらを紹介させていただこうと思います。

冬のある日、7つ子ねずみたちは、氷のはった湖にスケートにでかけました。すると湖の真ん中から「コーン コーン」と音が聞こえてきました。イタチの親子が氷に、穴をあけていたのです。いったい何をしていると思いますか？なんと、イタチの親子は、氷に穴をあけて魚を釣り始めたのです。それを見た子どもたちは家に帰ってから、お父さんとお母さんに「さかなつりに いこうよ」と誘います。しかし、お父さんは仕事、お母さんは、「ざんねんだけど、おかあさん、みずうみなんかに行ったら、つるころんてしまうわ。こどものころは、さかなつり だいすきだったんだけどね。」と言います。そこで、子どもたちは、お父さんと一緒に、どうしたらお母さんが魚釣りに行けるかを、一生懸命考えました。そして、お母さんに内緒で椅子ゾリを作りました。次の日、お母さんを椅子ぞりにのせて、子どもたちはソリをひっぱったり、押ししたりしながら、氷のはった湖の真ん中まで、魚釣りにでかけたのです。ソリには、薪も積み、採れた魚をその場で焼いてたべたのです。そのおいしそうなおこと！

氷に穴をあける方法も、氷の上での焚火やその焚火で魚を焼いて食べることも、私にはとても新鮮でした。そして、その生活の知恵や、寒さ厳しい地方ならではの、冬の楽しみ方なども、優しい絵から感じ取れる素敵な絵本です。また読めば読むほど「こんな風に遊んでみたい!」と思わせてくれる絵本でもあります。お金をかけなくても、身近な自然で、子どもたちとこんな風に、季節をたのしむことができたら、どれだけ幸せなことでしょう。

他の3冊は、春・夏・秋の季節感あふれる絵本です。ぜひ、季節に合わせて読んでみてはいかがでしょうか。



イタチの親子が、氷に穴をあけているところ



魚釣りにでかけたところ。まるで、それぞれの会話も聞こえてくるような、絵です。

誕生日おめでとう

